

にじの郷だより

第30号

異次元の…

“にじの郷”は特別養護老人ホーム（定員29）とショートステイ（定員20）からなる規模の小さな施設ですが、一段と進む人口構成の高齢化を見据え、介護を必要とするようになってもいつまでも地域の中で健康に暮らしていきたいという多くの方の願いを実現すべく設置され、今、6回目の春を迎えています。

これまで順調に歩みを進めてこられたのも偏に地域の方々、ご利用者様や家族の皆様の御支援・御協力があってこそであり、役職員一同心から感謝致しております。

コロナウイルス感染症の第8波も幾らか落ち着きをみせている状況ではありますが、この5月には感染症分類をインフルエンザ同様の“第5類”に位置付けるとの政府決定もあり、今後どのように推移するのか見通せないままとなっています。とりわけ感染による重症化リスクの高い高齢者施設の場合、これまで原則休止としていた家族との面会やボランティアの受け入れなど具体的な問題につきましては国の指針なども示されていないことから早い時期に結論を見い出していかなければなりません。早急に検討を進めていく所存です。

現内閣はことあるごとに「異次元の」という言葉を発しますが、そして確かにこれ程長期間に及ぶ感染症の流行や昨年比で2倍以上ともなっている電気料金の高騰など想像だにしていなかった「異次元」の事象が相次いでいます。ガソリンや食料品また介護用品の値上がりも異常な状況となっています。

しかし、こうした諸情勢を踏まえての政府の対策はいわばその場限りの、小規模なものであり、決して「異次元」のものとはなっていません。介護人材の育成・確保も同様です。

このような中でも“にじの郷”はこれまで以上に親しまれ頼られる施設としてサービスや設備の充実を図って参りたいと考えております。

その為にはこれまでに増して安定した経営基盤を確立していく必要があります。

つきましては、多くの皆様に御支援を賜りたく、諸物価値上がりの折、大変恐縮ではありますが、御寄附のお願いを申し上げる次第です。何とぞ宜しくお願い申し上げます。

2023年 例年にない寒さを乗り越えた春に



居住費と節電



“にじの郷”のご利用者様のお部屋は全室ユニット型個室となっており、1日につき、2,200円いただいております。

このお部屋代、居住費という名目でいただいているのですが、価格設定にあたり、市内特養さんのアドバイスをいただき決定しました。その際、考え方の基準・根拠があった方が良いという事で、居住費の利用者負担額の内容（例）と実際の計算書のフォーマットについて教えていただきました。

考え方の基本となるのは、

$$\text{1人1日当たりの負担額} = \frac{\text{年間所要額}}{\text{定員} / \text{利用率} / 365 \text{日}} \text{の式で、}$$

年間所要額には、公的助成（補助金）を除く施設建築費や建物の修繕費、維持費、福祉用具を除く備品購入費に水道光熱費等も年間所要（見込）額に含まれるというもの。いわゆるホテルコストの概念で出た結果が2,200円だったのです。

（参考までに、にじの郷は、2016年末に入札したのですが、当時は建築費の高騰もあり、それ以前の5年、10年前に建てられた同規模の施設さんと比較しても、〇億円ほど高かったため、このような結果となりました。）

ところで、電気代については、このところの高騰につき、ご利用者様のご協力・ご了承をいただいた上で、必要に応じ、共用部の間引き照明等実施しているのですが、経費の削減という点でとらえると、これだけでは追いつかず、数か月後には、建物外灯の間引きや点灯時間の短縮実施を検討しているところです。

最後になぜ一連の取り組みをするかという事になるのですが、施設の経費節減だけではなく、現在から将来にわたって、ご利用者様の居住費の価格据え置きに加え、資源の有効活用をすることで、少しでもより良い社会づくりに寄与する為であり、その趣旨をお汲み取りいただければ幸いです。

オフィスで、できること。

使わない機器の電力を、こままっているところに譲りましょう





認知症介護 Q & A

Q(質問) 同じことを何度も聞く

同居している実母のことです1か月前に認知症と診断されました。もともと心配性の母ではありましたが、以前にも増して、同じことを何度も聞いてきます。何度も同じ事を聞かれるので、一緒に住んでいる私も疲れてしまいました。どうしたらよいでしょうか。

A(回答) 話を聞き安心感を

認知症の初期段階には「最近なんとなくいつもと違う」といった曖昧さに対する自覚があるため、不安になり誰かに確認したくなります。

一緒に生活しているご家族からすると「また同じ事を言っている」と思いがちですが、お母様にとっては「忘れること」に対する心配や不安があるため、確認をするために何度も聞くという行為が増えているものと思われます。

毎日のこととなると、ご家族にとっては大変なことと思います。お母様が繰り返し聞いてくるときには、**ご家族がその都度お母様の不安な気持ちに寄り添って話を聴くことが大切です。**そうすることで、お母様は安心し、繰り返し聞いてくる確認行為も少なくなることにつながると思います。

また、お母様の介護をする中で、ご自分の生活も大切にできるように、介護サービスの利用を検討してみてもはいかがでしょうか。

介護サービスを利用するためには、要介護認定の申請をすることが必要になります。その際は、最寄りの地区保健福祉センター窓口にご相談ください。
【参考文献：群馬県ホームページより】

地域密着型特別養護老人ホームにじの郷
ショートステイにじの郷

〒971-8151 福島県いわき市小名浜岡小名字山ノ神27番1

TEL:0246-73-0266 FAX:0246-38-5541

MAIL:info@iwaki-nijinosato.or.jp

URL:http://iwaki-nijinokai.jp

